

最近の調剤医療費（電算処理分）の動向 令和5年度6月号

○ 概要

- (1) 令和5年度6月の調剤医療費（電算処理分に限る。以下同じ。）は6,716億円（伸び率（対前年度同期比。以下同じ）+6.7%）で、処方箋1枚当たり調剤医療費は9,027円（伸び率▲2.6%）であった。（→P.1,2）
調剤医療費の内訳は、技術料が1,863億円（伸び率+9.2%）、薬剤料が4,840億円（伸び率+5.7%）、薬剤料のうち、後発医薬品が931億円（伸び率+6.1%）であった。（→P.4,5）
- (2) 薬剤料の多くを占める内服薬の処方箋1枚当たり薬剤料5,134円（伸び率▲4.0%）を、処方箋1枚当たり薬剤種類数、1種類当たり投薬日数、1種類1日当たり薬剤料の3要素に分解すると、各々2.77種類（伸び率+1.7%）、26.6日（伸び率▲5.8%）、70円（伸び率+0.2%）であった。（→P.8,9）
- (3) 内服薬の薬剤料3,819億円（伸び幅（対前年度同期差。以下同じ。）+185億円）を薬効大分類別にみると、総額が最も高かったのは39 その他の代謝性医薬品の718億円（伸び幅+38億円）で、伸び幅が最も高かったのは62 化学療法剤の+105億円（総額229億円）であった。（→P.13~19）

年齢区分	内服薬 総額 (伸び幅)	総額順（総額）		
		1位	2位	3位
全年齢	3,819億円 (+185億円)	39 その他の代謝性 医薬品(718億円)	21 循環器官用薬 (582億円)	11 中枢神経系用薬 (528億円)
0歳以上 5歳未満	23.3億円 (+5.5億円)	44 アレルギー用薬 (7.1億円)	22 呼吸器官用薬 (5.3億円)	61 抗生物質製剤 (3.9億円)
5歳以上 15歳未満	92.0億円 (+16.4億円)	44 アレルギー用薬 (29.3億円)	11 中枢神経系用薬 (27.3億円)	39 その他の代謝性 医薬品(6.9億円)
15歳以上 65歳未満	1,442億円 (+119億円)	39 その他の代謝性 医薬品(273億円)	11 中枢神経系用薬 (264億円)	21 循環器官用薬 (179億円)
65歳以上 75歳未満	837億円 (▲15億円)	39 その他の代謝性 医薬品(189億円)	42 腫瘍用薬 (146億円)	21 循環器官用薬 (145億円)
75歳以上	1,425億円 (+60億円)	21 循環器官用薬 (255億円)	39 その他の代謝性 医薬品(248億円)	42 腫瘍用薬 (186億円)

- (4) 処方箋1枚当たり調剤医療費を都道府県別にみると、全国では9,027円（伸び率▲2.6%）で、最も高かったのは高知県（10,917円（伸び率▲0.4%））、最も低かったのは佐賀県（7,767円（伸び率▲0.6%））であった。
また、伸び率が最も高かったのは沖縄県（伸び率+1.4%）、最も低かったのは鳥取県（伸び率▲4.5%）であった。（→P.31~32）

《《後発医薬品の使用状況について》》

【後発医薬品割合】（→P.39）

	後発医薬品割合	伸び幅
数量ベース（新指標） ^{注）}	84.5 %	+1.7 %
薬剤料ベース	19.2 %	+0.1 %
後発品調剤率	80.0 %	+2.1 %
（参考）数量ベース（旧指標）	59.6 %	+1.7 %

注）〔後発医薬品の数量〕 / （〔後発医薬品のある先発医薬品の数量〕 + 〔後発医薬品の数量〕）で算出。

【後発医薬品 年齢階級別】（→P.40~41）

	全体	最高	最低
後発医薬品薬剤料の伸び率	+6.1 %	+35.3 % (5歳以上 10歳未満)	▲3.9 % (70歳以上 75歳未満)
後発医薬品割合（薬剤料ベース）	19.2 %	29.5 % (100歳以上)	11.3 % (10歳以上 15歳未満)
後発医薬品割合（数量ベース、新指標）	84.5 %	88.9 % (100歳以上)	79.9 % (5歳以上 10歳未満)

【後発医薬品（内服薬） 薬効分類別】（→P.46~50）

年齢区分	内服薬 総額 (伸び幅)	総額順（総額）		
		1位	2位	3位
全年齢	795 億円 (+51 億円)	21 循環器官用薬 (238 億円)	11 中枢神経系用薬 (140 億円)	23 消化器官用薬 (98 億円)
0歳以上 5歳未満	9.0 億円 (+2.8 億円)	44 アレルギー用薬 (4.3 億円)	22 呼吸器官用薬 (3.1 億円)	61 抗生物質製剤 (0.6 億円)
5歳以上 15歳未満	16.6 億円 (+4.3 億円)	44 アレルギー用薬 (8.6 億円)	22 呼吸器官用薬 (2.8 億円)	11 中枢神経系用薬 (1.8 億円)
15歳以上 65歳未満	278 億円 (+26 億円)	21 循環器官用薬 (67 億円)	11 中枢神経系用薬 (65 億円)	44 アレルギー用薬 (28 億円)
65歳以上 75歳未満	172 億円 (▲3 億円)	21 循環器官用薬 (64 億円)	23 消化器官用薬 (22 億円)	11 中枢神経系用薬 (21 億円)
75歳以上	319 億円 (+21 億円)	21 循環器官用薬 (107 億円)	11 中枢神経系用薬 (52 億円)	23 消化器官用薬 (48 億円)

【後発医薬品 都道府県別】（→P.55~60）

	全国	最高	最低
処方箋1枚当たり後発医薬品薬剤料	1,251 円	1,622 円(北海道)	1,067 円(佐賀県)
処方箋1枚当たり後発医薬品薬剤料の伸び率	▲3.1%	+1.5 % (島根県)	▲4.7 % (埼玉県)
新指標による後発医薬品割合（数量ベース）	84.5 %	90.8 % (沖縄県)	80.9 % (徳島県)
後発医薬品割合（薬剤料ベース）	19.2 %	22.2 % (鹿児島県)	16.6 % (京都府)
後発医薬品調剤率	80.0 %	86.0 % (沖縄県)	76.1 % (東京都)
（参考）旧指標による後発医薬品割合（数量ベース）	59.6 %	67.0 % (沖縄県)	55.9 % (東京都)

〔利用上の留意点〕

分析対象レセプトの特徴

- 審査支払機関（社会保険診療報酬支払基金及び国民健康保険団体連合会）において、レセプト電算処理システムで処理された調剤報酬明細書のデータを分析対象としている。
- 令和5年度6月現在の電算処理割合は、処方箋枚数ベース、医療費ベースともに約99%である。